

八ツ場(やんば)/20世紀の残像

群馬クラブの情報はこちら
http://jia_gunma.typepad.jp/jia/

一万人の世界建築家展
<http://www.10000architects.com/?jp>

1947年9月(昭和22年)カスリーン台風により、利根川流域では水害(土石流や河川氾濫)による死者・行方不明者2000人に及ぶ甚大な被害を受けた。特に利根川下流域の堤防決壊・破壊は2500か所強、首都圏の江戸川流域は8万戸を超える家屋が浸水した。これを契機に1949年「利根川改訂改修計画」が策定され、水害から利根川中・下流域を守り且つ首都圏への生活用水と流域への農・工業用水の供給を目的に、上流に大規模なダムを8ヶ所建設する方針が立てられた。この最後の一つが八ツ場ダムである。

水没地域住民の40年にわたる反対運動と補償交渉、ようやくの合意形成と妥結に20年、さらに一昨年の政権交代後の予想外の中断、半世紀以上経過した今でも地元は未だに翻弄され続けている。その結果、当初5地区で350世帯であった移転対象家族の多くは地域外への転居を選択していった。住み留まる事を選んだ僅か50の世帯は、国のまちづくり計画によって造成された5つの代替え地区に移住し湖面に架かる橋梁により結ばれあらたな生活環境が実現されつつある。

3.11. 未曾有の災害が東北を襲った。その後に国や自治体から人工地盤や高台移転、それらを結ぶ道路・橋梁・インフラ計画が声高に発表されたが、その内容(手法)は八ツ場のまちづくり計画と酷似しているのではないだろうか。八ツ場地区では60年が経過し尚人々の不安定な日常は続いている。またダム本体の工事は中断しているものの関連付帯施設はほとんど出来上がり、映像でお馴染みの5つの代替え地を結ぶ橋梁、JR吾妻線の掛替え橋梁とさながら土木博覧会の様相を呈している。

山間の生活から高台の平坦で日当りの良い造成地へと、また準高速道路により都市部とも短時間で結ばれ、確かに以前より利便性のある生活は得られた。が、5地区が明確に分断された事により、かつてのゆるやかな地域間コミュニティや地域振興は失われつつある。「生活の質」や「持続可能な環境」をヒューマンスケールで、多様な価値観で考えて行くことの大切さ。群馬地域会では「21世紀の八ツ場」見守りつつこれからできる事を模索していきたい。



長野原地区代替地
山間に忽然と現れた新規造成地。中央近くに据えられた養蚕農家を模したと思われるモデルハウスの周囲には、新建材で覆われた住宅が次々と建てられている。



川原畑地区代替地
付替えとなった国道は地域高規格道路として位置付けられ、吾妻渓谷に沿った旧国道の面影は微塵もない。

八ツ場ダム完成予想模型 やんば館展示



八ツ場ダム予定地

前橋



川原湯地区代替地
昔ながらの温泉情緒を残し、多くの文豪にも親しまれた川原湯温泉街も、ダム建設に伴い開湯より800年余りの歴史に終止符を打ち、整然とした造成地に移転する。



- | | | | |
|--------|--------|--------|-------|
| 青木 榮 | 飯井 雅裕 | 家住 美路 | 石川 純男 |
| 伊藤 昭博 | 井野 徹 | 上原 和彦 | 岡田 敦志 |
| 荻原 正人 | 片山 康浩 | 唐澤 勉 | 神澤 宣次 |
| 小林 光義 | 荘司 由利恵 | 須田 睿一 | 曾田 彰 |
| 多賀谷 正一 | 長井 淳一 | 永井 福二 | 萩原 涉 |
| 羽鳥 悟 | 林 修司 | 樋口 久見子 | 松本 金弥 |
| 丸橋 森雄 | 水上 勝之 | 山内 彰 | 米田 雅夫 |
| 松村 和雄 | | | |